

公共施設の再編に関する意見交換会 概 要 報 告

日 時 令和元年11月3日(日)10時00分～11時35分
場 所 皆瀬総合支所 2階会議室
対 象 地 区 皆瀬地域

参 加 者 20 人

内 訳	計			20代			30代			40代			50代			60代			70代			80代		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
皆瀬地域	20	14	6	1	1		0			5	5		2	2		6	3	3	5	2	3	1	1	
そ の 他	0	0	0	0			0			0			0			0			0			0		
計	20	14	6	1	1	0	0	0	0	5	5	0	2	2	0	6	3	3	5	2	3	1	1	0

市 出 席 者 湯沢市公共施設アドバイザー、
総務部長、企画課長、企画政策班長、担当

概 要

開 会

あいさつ

総務部長



説 明

(企画課)

- ① 公共施設を取り巻く課題
- ② エリア別の公共施設再編方針(案)の概要
- ③ 集会所の地元譲渡にかかる支援策の概要



概 要

情 報 提 供

湯沢市公共施設アドバイザー 川嶋幸夫氏



質疑応答、
意見交換



○小学校のPTAの立場としていろいろな会に参加しており、学校再編なども進んでいるという感じを受けるので特に意見はないが、いつまでも進まないようなことがないよう、スケジュールを明確にして、住民、保護者に分かるように説明してほしい。皆瀬児童クラブについては、かなり過密で、感染症の流行している時期には、利用できなくなると保護者も困るので、広いところに移していただくのは良いことだと思う。給食センターも移転するだろうと思っていたので、その場所の利用が実現すれば、皆瀬地域は小中一体の良い環境になるのではないかと思います。

⇒(市)現時点の再編計画中間案では、検討ばかりが多くなっているが、市としても一定の時期が来たら結論を出して、市民の皆様に説明する義務があると考えている。特に皆瀬地域は、庁舎周辺エリアの再編があるため、関係団体、地域の皆様と調整しながら、庁舎整備基本計画を策定したいと思っている。児童クラブについては、皆瀬地域に限らず、近年、ニーズが高まってきており、一人当たりの面積が足りなく窮屈だという箇所もあり、緊急に解消すべきと考えている。

⇒(アドバイザー)市の説明では、給食センターに学童クラブを移転するのは難しい面もあるかもしれないとのことだったが、市内の学校でも給食室を利用してスタートした事例がある。

⇒(市)具体的な例を申し上げますと、三関地区と須川地区には児童クラブが無かったが、三関小学校の中にあったランチルームを改修し、今年度からスタートする予定である。スペースがあれば環境整備は可能であるので、そのような方向で進めたいと思う。

○解体した民間の温泉施設跡地はどうなるのか。

⇒(市)市には所有権もなく、関与もできない施設であったが、近隣への安全面と、観光地のイメージの影響を考え、行政代執行という法律により市で解体し、危険の除去、景観の保全をすることとした。解体後については、市の所有する土地でないため、市が利用することはできない。

⇒(アドバイザー)廃墟ホテル等については、全国的にも問題となっているが、行政ができる範囲がある。所有者に跡地利用をどうしてもらうかということは大きな課題である。

○皆瀬庁舎の新築に対しての反対者はいないと思う。しかし、現在も震度7の地震がくれば、この場にいる私たちは危ない状況であるのに、それをもう5年も待たなければならないのかと思う。もう1年、2年早いスピードでお願いしたい。

⇒(市)安全が確保できるように、1日も早くという気持ちで取り組んでいく。

○計画については大変良いと思うが、市の財政が心配である。なぜ再編、複合化していくのか。全部の施設を維持管理していくと、それだけのお金がかかるということであり、皆瀬地域でいえば、生涯学習センターや診療所との複合化を図るとのことだが、新築した場合と、皆瀬庁舎の耐震性高めて使った場合、10年後、20年後にいくらかかるのか新築と複合化の比較した資料が欲しい。比較資料によって新築した方が安く上がることが分かれば良いと思う。

⇒(市)皆瀬庁舎の総合開発センター部分については、耐震診断した結果、構造の耐震補強はできても、コンクリートそのものの強度がなく、一般的な対処法ではできないという結果であった。通常は新築と耐震補強を比較検討するが、耐震補強はできないという専門家の診断結果であり、その選択肢はなくなったというのが実情である。

⇒(アドバイザー)コンクリートの強度が足りない場合、耐震改修するとなると、鉄筋だけにしてコンクリートを打ち直すという手法があり、新築の7割くらいの費用で収まるという論文がでている。総合開発センターの場合は延床面積から算出しても相当な金額がかかることになる。庁舎、生涯学習センター、診療所を複合化し、コンパクトに建て替えた方が耐震補強するよりも費用を抑えられる試算になる。コンパクトに、使い勝手良く新築し、その後の維持管理費用までを考えると、経済合理性があると推論できる。

○小学校校舎の空きが足りないため、放課後児童クラブを湯沢雄勝広域交流センターに一時移転することの説明だったが、湯沢東小学校には空きがあるのではないかと。

⇒(市)空き教室については、余裕スペースができて、学校としては他の用途で使うために空いていないとのことだが、児童クラブの学校校舎内への配置に向け、教育委員会と協議しているところである。現在は児童クラブが入るための空きは無い状況である。

⇒(アドバイザー)今後、各学校にはどのくらい使っていない部屋、使いきれていない部屋があるのか、教育委員会に出してもらう予定である。教室の並びを変えることにより、空間を捻出することができるのであれば、児童クラブを移転させることは可能だと思う。そのきっかけとなるのは、学校の大規模改修であり、教室の再配置を行うことで空きスペースを出すことができる。その空きスペースを、地域の皆様が使ったり、児童クラブが入ったりできるよう、整備していかなくてはいけないと思う。現在、教育委員会では、空き教室はないとのこと、確かに何らかには使っているものの、一週間に一回程度など、常時使わない部屋もたくさんある。そういった部屋を出させないと、空いているのかという実証には至らないと思うので、来年度にかけて精査して、どの位解放できるのかということを整理する。

○皆瀬地域は、結婚する人がおらず、子どもも産まれないため、どんどん人口が減っていく。学校の子どもたちは少なくなるので、校舎内に児童クラブを作ることはとても良いと思う。

○施設を機能集約してハコモノを減らすことは、合理的な考え方なので異論ない。規模についての検討は必要だと思う。児童クラブについても、先を見据え、児童の人数に見合った面積を慎重に見積もらないと、今後子どもが増えた場合に受け入れができないということもあると思う。少なくなるのだから狭くていい、コンパクトでいい、どんどん小さくしていい、ということではなく、増える可能性もあるのだから、ある程度広さは確保する方が良いと思う。

⇒(アドバイザー)皆瀬児童クラブの利用人数はどうなっているか。

⇒(市)定員40名に対して、登録が43人、平均35人の利用となっている。現在は、国の基準面積を満たしておらず、狭い状態である。給食センターに移転できれば、基準は確保できることになる。

⇒(アドバイザー)給食センターに移転できれば、スペース的には十分ゆとりがあることになる。あとは、そこにどういふ部屋を備えたいのか、障がいのあるお子さんが利用できるような面積を確保するなど、余裕を持ったスペースをとっておかなくてはいけないと思う。また、庁舎の建替に併せて生涯学習センターや診療所の機能を入れることになるが、生涯学習センターは、どういふことをやっていったら良いのかを考えなければならない。庁舎も、住民票の写しなど各種証明書の発行や受付だけではなく、それ以外にどういふ機能が必要なのかを中身をよく検証したうえで、どの位のスペースが必要なのか算定していくことになる。中身を吟味した結果、面積が出てくる。

○皆瀬庁舎には、現在、農協、郵便局、商工会が入っているが、市としては、そういった団体が入るなら受け入れるというスタンスなのか、住民のために入ってほしいと強く言っているのか伺いたい。また、喫茶「よりみち」は市民の集まり処になっているので、社会福祉協議会が運営できない場合は、市が運営してもらえないか。

⇒(市)関係団体については、地域のさまざまな生活に関連するサービスが一箇所で行えるため、庁舎建替後も、続けていただきたいという御相談をしている。それぞれ団体の事情もあるため、結論までには至っていないが、現在も協議をしているところである。社協の喫茶についてもスペースを確保し、引き続き運営してもらえるよう協議している。

○皆瀬庁舎周辺エリアを見ると、消防署皆瀬分署の機能も複合化されると思っていた。皆瀬分署は、エリア再編のなかで位置づけされるのか。現在の分署の建物はどうなるのか。

⇒(市)皆瀬分署については、広域市町村圏組合が耐震診断をしており、耐震性が確保されていないとの判定だったと伺っている。皆瀬庁舎との複合化について、広域消防に話はしているが、消防分署のあり方はあくまでも別組織であり、現時点で庁舎への複合化の話はない。今後、広域市町村圏組合がどのような対応をしていくのか、再度確認が必要と考えている。市役所庁舎と消防の365日24時間対応の機能が共有したり、合築したりすることは、難しい点があるという話もある。広域でも耐震性のない皆瀬分署は課題だと捉えているはずなので、期限を設定して考えを示してもらいたいと思う。

○現在の庁舎は農協、郵便局、銀行などの用事が一箇所で済ませられるメリットがあり、行政的な面、地域のネットワーク機能からしても、従来どおりとまではいかななくても残してほしいと感じている。

⇒(市)市としては、各種サービスは、建替後もその機能を続けてもらいたいと考えており、そのスペースは確保するというのを、各団体に説明している。各団体からは基本計画を示すまでに回答をいただきたいと思っている。

○生涯学習センターや診療所の機能が集約されるということは、残った建物は解体になるのか、残った土地は更地になるのか、有効利用を考えているのか。借りている土地もあるかと思うが、返還するのか、購入するのか。現時点ではどのように考えているのか。

⇒(市)耐震性があり、まだ使える建物であれば、転用や民間の事業者へ公募するなど有効利用を図るが、皆瀬生涯学習センターや診療所は耐震性が無いため、利活用は難しいと思う。建物も土地もまだ決定ではないため、現在の契約の状況をふまえ、対応が必要と考えている。

○一つの施設にいろいろな機能が集約されることはメリットがあると思うし、高齢化社会により、車の免許を持たない人が増えた時、非常に便利だと思う。ぜひ皆瀬地域の象徴になる、他への見本になるような建物にしてもらいたいと思う。JAでも、令和5年に全県一本化という構想が始まっており、どういふ形で残っていくのか、流れがまだ決まっておらず、非常に不透明な状況である。皆瀬庁舎に入らないかという打診があるようだが、皆瀬地域にJAが残るよう、地元住民からも応援してほしいと思う。

⇒(市)JAの場合は、市からの貸与ではなく、一部共有という形である。整備基本計画を作るために結論を出していただくこととなるが、市としては引き続きサービスを展開していただきたいと思っている。

○高齢化により健康寿命をいかに伸ばすかということが叫ばれている。横手市や羽後町でトレーニングセンターを造っているという話を耳にする。湯沢市でも民間が有料で始めたところはあるが、小安からだ冬場は特に湯沢地域は遠く感じるので、皆瀬地域にあれば一番良いが、稲川地域にあっても良いと思う。造っても利用者がいないのではないかという心配もあるので、近隣の施設の例を聞いたり、教室を開催したりすることも必要になると思う。まちづくりとして、健康づくりというのは大きな部分だと思う。トレーニングルームがあれば、少しでも健康寿命を伸ばせられ、そういう意識を高めるための施設になるのではないかな。

⇒(アドバイザー)健康づくりは市としての大きな課題である。

⇒(市)健康寿命については県でも早くから取組を進めており、市でも健康アンバサダーや健康ポイントなど、健康寿命を伸ばす意識を高める取組を行っているところである。市内には、総合体育館のほか、旧秋ノ宮小学校を利用したスポーツセンターを設置しており、雄勝地域の地区センターにはトレーニング器具が設置されているが、稲川、皆瀬地域にはそういった器具がない状況である。現在、需要が高まっていると伺っているので、御意見を参考にさせていただき、健康づくりの取組のなかで地域に器具を設置することについて関係部署と相談していきたいと思う。

⇒(アドバイザー)いろいろな自治体に行っているが、トレーニングルームを設置するのは良いが、1年位経つと閑古鳥が鳴いて器具が錆びついて使えなくなった事例を見る。造ったあとも、市民の皆様、地域の皆様に使ってもらえるような取組をしていかなければならない。健康づくりが地域課題の一つになるかと思うので、それを、総合支所でどうコーディネートしていったら、地域の健康づくりをどう進めていくのか、生涯学習センターの役割、体育館の役割として、どう担っていったらいいのかを考えていく必要がある。それがこれからの総合支所の地域課題に向けた取組の一つになると思う。

⇒(市)庁舎の建替に際して、生涯学習センター、診療所等、どういったことを展開していけば良いのか、地域の皆様と御相談しながら進めていきたい。使い勝手の良い施設にするとともに、交通手段などの面も考えながら、皆様の期待に応えられるようにしたいと思うので、会議の際はよろしく願いたい。

○稲川地域の小学校統合に合わせて皆瀬の給食センターも統合するようだが、皆瀬児童クラブが狭いという課題を解消するために、稲川地域の統合を前倒しで行うことができないか。あまり経費をかけずにできるのであれば、一日も早く進めて、児童クラブの問題も解決してほしい。

⇒(市)統合に伴ってスクールバスの運行準備や校舎の整備、保護者の皆様の準備もあるため、教育委員会では、最短でも令和4年としている。放課後児童クラブについては、基本的には学校校舎内への配置が望ましいといった方針であるが、学校は教育部、児童クラブは福祉保健部が担当で、これまでは、なかなか一体に考えられない状態であった。これからは、縦割りではなく、子どもを中心に考えられるよう、職員の意識改革も含めて取り組んでいく。

○いろいろなデータから計画していると思うので、なかなか変えることはできないと思うが、合理性の面から統合する、廃止するという判断をしているのではないかな。皆瀬地域は小安の大墳湯など観光資源があるところである。観光だ、ジオパークだと宣伝しておきながら、小安スキー場や温水プールを廃止するなど矛盾しているのではないかな。全て残せという訳ではないが、合理性で中央部にだけ集めるのはいいかなものかと思う。稲川の4小学校を統合して、将来は皆瀬小学校も統合するのが一般的な流れだと思うが、稲川と皆瀬を合わせて1校ではなく、稲川の一部を皆瀬に統合し、2校にしても良いのではないかな。赤字続きだった施設が、入場料を無料にしたら客数が増えて黒字になったという話がある。これまでの考えを変えても良いのではないかな。

⇒(市)一極集中という考え方ではなく、集約していいものと、地域で必ず残さなければならぬものがあると思っている。また、地域の特色も大切にしなければならないと思っている。特に、小安峡温泉地域については、活性化プランの策定に取り組んでいるところである。PRを強化して、観光客に来てもらえるよう、12月にはプランを皆様にお知らせできるのではないかなと思う。なかでも最近ではキャンプが有望だということで、それを中心に、観光ジオパーク推進課が取り組んでいる。とことん山を核としたものであるが、その施設だけではなく、地域の資源、人材を活用して、観光に携わっている方もそうでない地域の方々も、地域を盛り上げられるよう、まとまって取り組んでいければと思う。